

2014年3月20日

作成：梶 護

第2回富山大学工学部地域コア運営委員会報告

■日時 平成26年3月13日（木） 14:00～17:00

■場所 富山大学工学部大会議室

■参加者 参加者 34名

(学内委員10名、学外委員15名、事務局関係5名、シーズ発表者5名)

■次第

司会者：富山大学工学部 副学部長 篠原 寛明

1. 委員長挨拶 富山大学工学部 学部長 堀田 裕弘

2. 地域コア運営委員会委員の紹介

3. フォーラム（11/29開催）アンケート結果の報告

地域コア担当コーディネータ 野末 武

4. 日本型 Industrial PhD 制度設計について

工学部副学部長 川口 清志

5. スーパー連携大学院生の研究テーマの紹介

「回転不変な輝度勾配特徴を用いた全方位動画の車両検出」

大学院理工学研究部 知能情報工学専攻 片山 康太郎

6. 大学からのシーズ発表・意見交換（各 発表15分、質疑応答5分）

(1) 「数値シミュレーションを用いた熱流体関連製品の開発支援」

機械知能システム工学科 川口 清司 教授

(2) 「次世代移動通信に対する取組と今後の動向」

電気電子システム工学科 小川 晃一 教授

(3) 「トランスレーショナルリサーチによる創薬研究」

生命工学科 豊岡 尚樹 教授

(4) 「Brookite型酸化チタン光触媒の開発」

材料機能工学科 橋爪 隆 助教

6. 「グリーンフロート研究会」第10回報告会状況ほか報告
地域コア担当コーディネータ 野末 武

7. 閉会の挨拶 富山大学工学部 学部長 堀田 裕弘

■特筆すべき内容

○日本型 Industrial PhD 制度設計について（議事録より抜粋）

川口副学部長より先行して実施しているデンマークの制度を紹介するとともに、この制度を参考にスーパー連携大学院コンソーシアムで検討しているモデルA・モデルBさらには富山大学モデルについて説明を行った。

富山大学モデルは、企業が学生を採用した後Drコースへ入学させ、その後共同研究を開始するというもので、学生の就職不安を解消することができるし、企業は優秀な学生を確保できる。反面、企業の負担が重くなると思われる。制度検討中であり企業の皆様から忌憚のないご意見を伺いたいと要望。

●主な質疑応答

- ・富山大学モデルではモヤシのような学生しか育たないのではないか心配だ。従来は、指導教官を選んでDrを採用していたし、従業員も派遣していた。教官の資質が重要だ。

A n . モヤシにならないよう、また従来の専門分野しかわからないDrにならないようスーパー連携大学院のプログラムでは、“志”教育やMOTなどを準備している。指導者の資質が重要だということは、十分理解している。

- ・他大学の学生の編入も可能か。

A n . 可能です。

- ・ひも付きだけが魅力ではなく、このシステムの人材育成の特色を如何にアピールできるかが課題でないか。

- ・採用面接時が何時になるのか。その時に技術的な能力をどれだけ伝えられるか疑問だ。また、逆に企業から青田刈りに利用される恐れはないだろうか。

A n . 貴重な助言に感謝する。まだまだ課題は多いと感じており今後検討していく。

■当日の様子

